

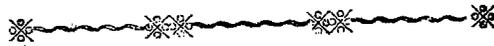
# うしお

第 22 号

1957. 10. 30.

## 目 次

巻 頭 言 .....	場	長	1
水質汚濁予備調査(才6報) .....	九萬田・永	山	3
「移動水試の試み」 .....	瀬戸口・竹	下	13
「ニュートリ スタイル」の加工試験 .....	製 造	部	24
「呆流魚」 .....	前 田 耕	作	30
奄 美 短 信 .....	大 島 分	場	31
薩南海域かじき、まぐる延縄漁況(才11報) .....	漁 業 部		33
要望らん .....	瀬 娃 町 役 場	原 口 義 雄	35
各 部 日 記 .....	編 集	部	36
分 場 日 記 .....	大 島 分	場	38
編 集 後 記 .....	編 集	部	



鹿兒島県水産試験場

鹿児島大学水産学部の練習船敬天丸に便乗する便誼を与えられて、北海道大学水産学部創基50周年記念行事中の主要部分の記念式典と日本水産学会大会に出席し、併せて余市町にある北大水研、並に北水試と函館にある同支所及び同支場や2-3の水産関係工場施設の見学をする好機を得た。

サッポロ農学校に置かれた水産学科から東北大水産学科、北大水産専門部を経て函館に移り高等水産学校、水産専門学校となり、戦後の学制改革で北大水産学部となつた。50年の間に教職員や卒業生多数の人々が各方面の職場に於て、日本の水産に与えられた数々の貢献に対しては、今さらながら深く敬意と感謝をささげたい。

北水研と道水試が本所と本場及び支所と分場の間に建物船舶、諸施設人員の関係で共用、兼務、有無融通などいろいろと密接不可分と云つてよい程な協力態勢にあることは、研究を進めその結果を業界に移す上にその精度と速度に於て良い部面の方が多いと思われる。もちろん世の中のこと萬事良いことばかりと云うわけには行かぬのが普通だから困る点もあるだろうと推察はするのであるが。水研は基礎研究、道水試はその応用試験をすべきだと云う一つの考え方もあるが示された様式を見て書き込んで行けば済む一般行政の文書作製とは遠つて技術の実施では日常いつしよに仕事をするか、始めから自分でやらなくては先に進めない場合の方が多いのだから。水研の研究結果が出るまで離れたところで待つていただけでは精度と速度に欠けるところがある様に思われる。

水産学会では、資源、漁具漁法の改良、増殖利用加工各方面にわたつて多数の研究結果が発表された。日本の北端で開催されたため、出席するには経費と日数がかかることが主な

原因だと思われるが、地方水試職員の発表はもちろん、出席者数に於て各水研や、大学関係者に比べて少なかつた様に見える。広く水産試験研究の現状をハズに感じとり、ともすれば考え方にも、日常の仕事の進め方にもマンネリズムに陥り易い人間の弱点に清新な風を吹き込み、元気を回復させるためだけでも学会出席に大きな意義があると私は考えるから、特に将来を担う若手の地方水試技術職員には努めて出席することを望みたい。2〜3大学の数名の若手出席者に聞いてみると、今年末のボーナスをカタに借金して旅費をつくり、出席したと云う。そう云うものを是認するものでなく、むしろ伝え聞く大名旅行族(?)のことを考えるとフンガイに耐えないのであるが、だからといって安易な生活態度を是認する気にもなれない。



水質汚濁予備調査（才 6 報）

- (1) 底棲生物調査（瓶 2）
- (2) 汀生物調査（瓶 1）

永山松男：九萬田一巳

(1) 底棲生物

○調査期間

○調査場所 前回（32年2月）の通り

○調査方法 前回の通り

○調査結果

各地点における生物査定の結果は別表の通りで、種名（sp）不明のものは鹿大水産学部にて査定依頼中。

〔st 1.〕

出現種は24種類で最も多い。生物組成としては「あみ」が最も多く30%、次いで「えびしやこ?」、Amphipodaが多い。前回と比べると出現種が増え、「えびしやこ?」の割合が高くなっている。「もえび」「あなじやこ科の一種」「べんけいかた」「ほととぎす」「おちば」「節足目ひとで」「はびらそと」などは前回、見られなかつた種類である。

〔st 2.〕

出現種は11種類で前回より多い。「あみ」が優占種として約80%近くを占め、次いで「ほととぎす」「あさり」となっている。前回とは組成において著しい相異がみられ前回、約30%を占めていた「Polychaeta」は0.37%となり今回の優占種「あみ」は前回、全然採集されなかつたものである。

〔st 3.〕

出現種は7種で前回の約半数。優占種は「ほととぎす」で50%を占め、次いで「あみ」が32%「えびしやこ」12.3%となつて「はぜ」「巻貝」「われから」「かごめり」

等は今回見られなかつた。

[ St 4 ]

出現種は14種で前回と大差ないが、組成においては相異がみられる。即ち、今回は「Polychaeta」が80%で断然多く、次いで「あさり」が45%となつているが前回は「はぜ」が35%「かいこがい」が13%となつている。

[ St 5 ]

出現種は4種で、前回と略等しく、「われから」が63.6%で、前回、採集された「こち」は全然みられなかつた。

[ St 6 ]

出現種14種で前回よりやや少ない(前回17種)組成としてはホトトギスが76.5%(479ヶ採集された)次いで「Amphipoda(含む、われから)」が見られ、前回33%を占めていた「Polychaeta」は約4.5%を示しているにすぎない。

[ St 7 ]

出現種20種でSt 1に次いで多く現われ、前回よりも多い。前回、極めて多く現われた「かごめのり」は全然採集されなかつたが、これは採集場所がやや沖に偏していたためかと思われる。(St 7は岸寄りの浅所であつて、前回はさゞなみで採取したが、今回はちどり丸で採取したため所定の地点よりやや沖に偏した。)

今回は「Amphipoda(含む、われから)」が最も多く、「かいこがい」が13.5%となつている。前回は「Amphipoda」は「かごめのり」に次いで多かつた。

[ St 8 ]

出現種5種で、種類数は前回と等しいが、前回の採集物「Polychaeta」「われから」「はぜ」「うに類似の種類?」「いぎす科の一種」であつたのに対して、今回は「われから」「えびしやく」「あみ」「Polychaeta」「ほしむし

?)で「われから」が56%を占めている。

{st 9}

出現種は4種類(前回は「Polycheta」1種のみ)で「われから」が50%を占め「えびしやこ?」「Polycheta」「Amphipoda」(われから以外の)などがみられた。

{st 10}

出現種は9種で前回よりやや多い(前回は6種)「Polychaeta」65.2%で最も多く「さくら貝」「ひめしやくしがい」等の2枚貝がやや多く見られる。

前回は「Polychaeta」「えびしやこ?」が多かった。

{st 11}

出現種として13種を数え、前回の3種類に比べると遙かに多い。「Polychaeta」が最も多く41.9%、次いで「2枚貝」(ほととぎす、さくらがい)「巻貝の外「えびの一種」「ゆむし」「節腕目ひとで」「ゆむし」もみられる。前回採集された「はぜ」は採集されなかった。

{st 12}

出現種は8種で前回と略等しいが、組成では「われから」が46%、次いで「あみ」30%の外「Polychaeta」「Amphipoda(われから以外)」「ほととぎす」「はぜ」「えびしやこ」「なまこ」などがみられる。前回は「Polychaeta」が半数を占め、次いで「われから」が約18%であった。

{st 13}

出現種7種で前回より少ない(前回12種)「Amphipoda(われから以外)」が90.8%で優占種として現われ「Polychaeta」「われから」「ひとで」等が若干みられる。前回の優占種としては「Polychaeta」が現われ「Amphipoda」では「われから」が僅かに見られたにすぎない。

{st 15}

出現種は11種で、前回の2種に比べ遙かに多い（前回は「おうきらゝがい」と「隠帯目ヒトデ」の2種）

今回の優占種は「節腕目ヒトデ」で「Polycheata」  
「Amphipoda」がやゝみられるほか「2枚貝」「巻貝」「なまこ」「藻類（種不明）」が若干みられた。

〔st17〕

前回の出現種は「Polycheata」「うみくも類似？」「えびしやく」「うすばあおのり」であつたが、今回は「Polycheata」と「2枚貝」の2種だけで「Polycheata」が94%を占む。

〔st19〕

出現種は前回の3倍、即ち9種で2枚貝幼生（種不明）が優占種として現われ、前回の優占種「Polycheata」と交替している。2枚貝に次いで「Polycheata」が22.3%を占めているほかは「ほとゝぎす」「かいこがい」「さくらがい」「おうきらゝがい」「Amphipoda」「Isopoda」などが若干みられた。

〔st21〕

出現種は前回半数の4種類「節腕目ひとで」「Polycheata」「かいこがい」「ひめしやくしがい」が見られるが羅網量少なく優占種をあげ得ない。

前回は「Polycheata」53.3%が優占種としてあげられ「やどかり」「あさり」等が見られた。

〔st23〕

出現種は6種類で「Amphipoda」が33%「2枚貝幼生」（種不明）が25%「Polycheata」16%のほか「ひめしやくしがい」「節腕目ひとで」などが若干みられる。前回は3回曳網して全然採集されなかつた。

〔st25〕

st23同様、前回は全然採集されず、今回は

「Polychaeta」が僅かに採集された。

〔 St 27 〕

出現種は4種で優占種としては「Polychaeta」の72.2%次いで「2枚貝（種不明）」の外「魚種（種不明）」1尾と「えびの一種」1尾が採集された。

〔 St 28 〕

出現種は8種類で「かいこがい」「Polychaeta」が多く「さくらがい」「あみ」「いせしらがい」「すなひとで」などが見られる。今回は「Polychaeta」「ヒトデ」「はぜ」が採集された。

前回「Polychaeta」が多くの地点で優占種として現われていたの比べ、今回はやゝ少なくなり「われから」と交替している処がみられる。

前回同様、清水川川口と岸寄りの各点では生物種類も多く「あみ」「貝類」等が優占種として現われているが、今回は特に永浜沖の地点において「節腕目ひとで」が優占種として現われていることは特異と云えよう。

底 棲 生 物 査 定 表

百分率組成

	1.	2.	3.	4.	5.
はぜ科の一種	0.20			0.57	
魚種不明					
えびしやこ?	33.00	0.78	12.80	0.57	
しばえび?	1.30				
ぬめえび?	0.56				
もえび?	0.87			0.57	
いそすちえび?				1.71	
あなじやこ科の一種	0.20			1.14	
えびの一種					
えびの一種					
あみの一種	30.80	77.80	32.10		
はまかた?	4.3				
べんけいかに	0.44				
かたの一種			1.28		
やどかり				0.57	
あさり	1.90	3.1		4.54	
ほとぎす	1.09	14.8	50.0	1.71	
かいこがい	0.2				
さくらがい				1.71	

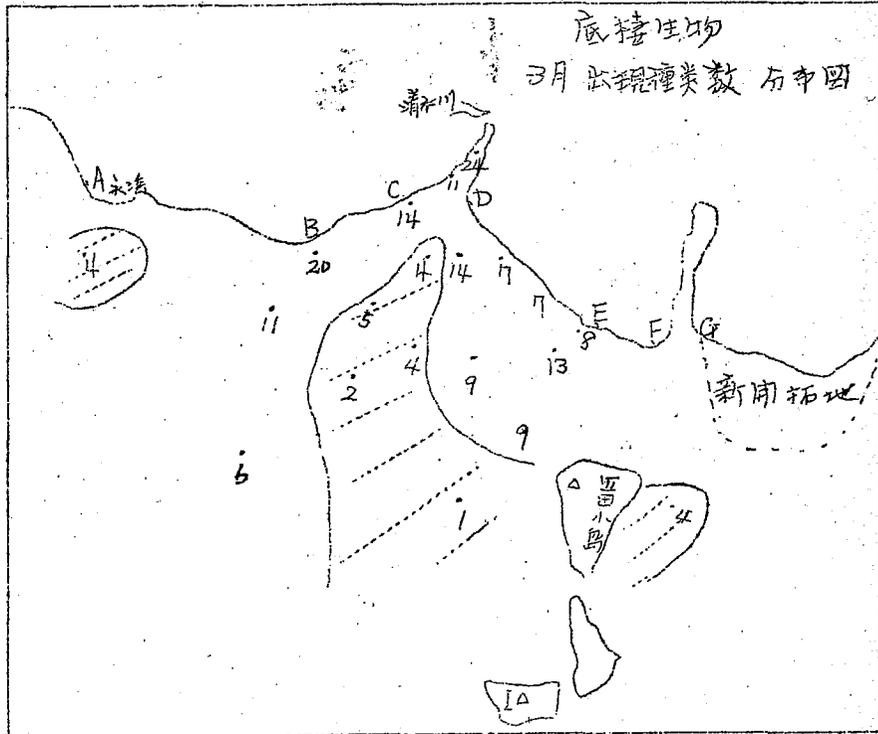
	1.	2.	3.	4.	5.
おちぼ?	1.09				
きせわた		0.39	1.28	0.57	
2枚貝種不明	0.42				
巻貝の一種	0.2				
Amphipoda	22.8		1.28		
" (わねから)				1.70	63.60
Polychaeta	1.9	0.39	1.28	81.80	18.20
節腕目ひとで	0.2	0.39		1.14	
種不明 (動物?)					
動物性卵? (鮮本)	0.65				9.1
けいぎす?	0.43	0.79			
かごめのり	0.86	0.78			
ひとえぐさ	0.86				
ばびらそと	0.43				
Isopoda	0.2			1.70	9.1
淡水藻		0.39			
ふしまつも科の一種		0.39			

	6.	7.	8.	9.	10.
はぜ科の一種	0.62	0.45			
えびしやこ?	0.16		30.4	16.7	
えびの一種		0.45			
えびの一種		1.35			
あみの一種	0.3	0.45	4.36		
あさり		0.45			
ほととぎす	76.50	0.9			
かいこがい?	0.16	13.5			
さくらがい		3.15			10.6
ひめしやくしがい					7.6
きんぎよ幼貝		0.9			
おきしじみ		0.45			
みそがい					
にしきらす科	0.3				
2枚貝 (おけまき類以下型)		0.46			4.50
2枚貝種不明	0.16	1.8			3.04
Amphipoda	11.5	17.10		16.7	3.03
" (わねから)	4.6	27.5	56.52	50.0	1.5
Polychaeta	4.46	7.66	4.36	16.6	65.2
ゆむし科の一種	0.47				
ほしおし?			4.36		
節腕目ひとで					3.03
なまこの一種		0.9			
うたの一種		0.46			1.50
種不明 (動物)		0.46			
くらげ類以?		8.2			
けいぎす	0.47				
Isopoda	0.15	13.5			
淡水藻	0.15				

	11	12	13	14	15
ほせ科の一種		1.52			
えびしやこ?		3.06			
えびの一種	3.22				
あみの一種		30.8			
かたの一種				1.1	
ほととぎす	3.22	4.6			
つのがい				1.7	
かいこがい?	6.45				
さくらがい	3.22				
みぞがい	3.22				
おほみぞがい				2.3	
みがきまるつ				0.6	
みらすがい	3.22				
べてあらわばら	3.22				
げんろくがい	3.22				
きせわた				0.6	
2枚目種不明	16.22			3.4	6.0
Amphipoda		4.6	9.08	5.1	
"(おれから)		46.2	3.64		
Polychaeta	41.90	7.7	4.6	14.8	74.0
ゆむし科の一種	3.22				
節脚目ひとで	6.45			67.0	
とげもみじがい			0.24		
なまこの一種		1.52			
うたの一種				1.7	
海綿の一種			0.24		
うみくも?			0.24		
けいぎす			0.24		
Isopoda	3.22			1.7	

	19	20	23	25	28
魚類種不明					
えびの一種				5.5	
あみの一種				5.5	
かたの一種			8.4		3.3
ほととぎす	0.6				
いせしらがい					
かいこがい?	0.4	20.0			3.3
さくらがい	0.4				4.65
おほきらがい	0.2				6.7
ひめしやくしがい		20.0	8.4		
2枚目種不明	71.5		25.0	16.8	
巻貝の一種	3.2				
Amphipoda	1.0		3.2		
Polychaeta	22.7	20.3	16.6	100.0	
節脚目ひとで		40.0	8.4		36.8
すなひとで					
Isopoda	0.4				3.3





## 2. 河生物

○調査期間 昭和32年4月3, 4, 5日

○調査場所 本図(調査点図)の通り

サ	場	所	腐水口予定地から の距離
イ	永	浜迄先	2,400m
ロ	永	浜と腐水口予定地の中間	1,200
ハ	腐	水口と腐水口予定地との中間	600
ニ	澁	水川川口右岸	50
ホ	澁	水川国道橋より上流	300
ヘ	澁	水川川口左岸	100
ト	島	津新田堤防捨石	1,100
チ	島	津新田堤防舟留	1,600
リ	浜	之市港入口	1,700
ヌ	"	(新干拓側)	1,800

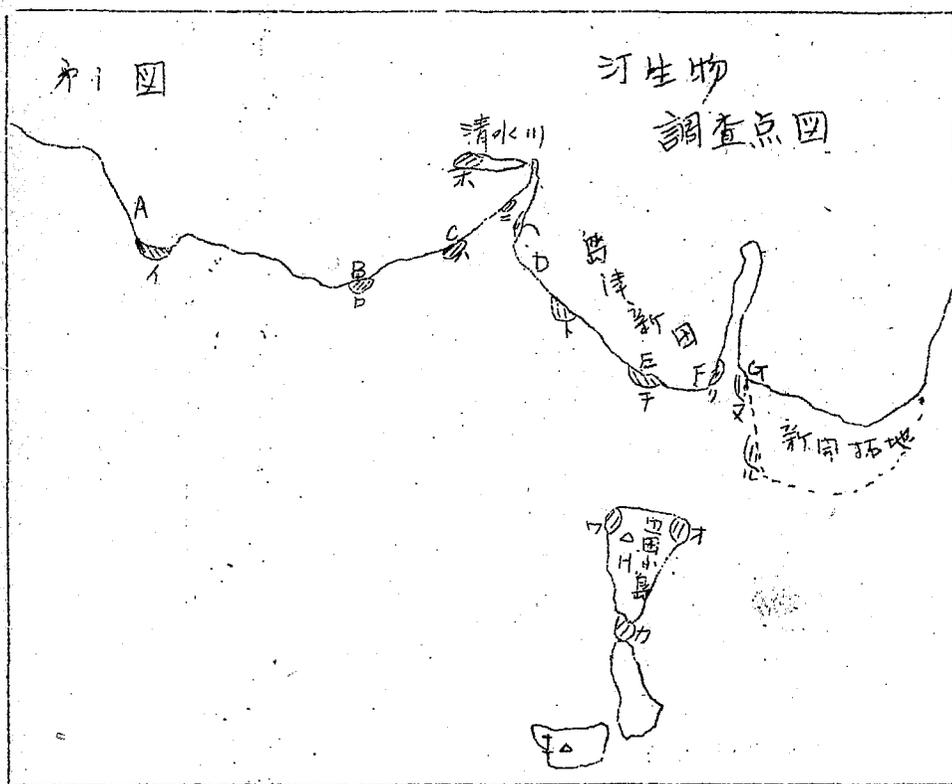
ル	新干拓堤防中間部	1,800m
ヲ	辺田小島北岸	2,200
ヅ	辺田小島南岸	2,000
カ	弁天島南岸	2,600

調査方法

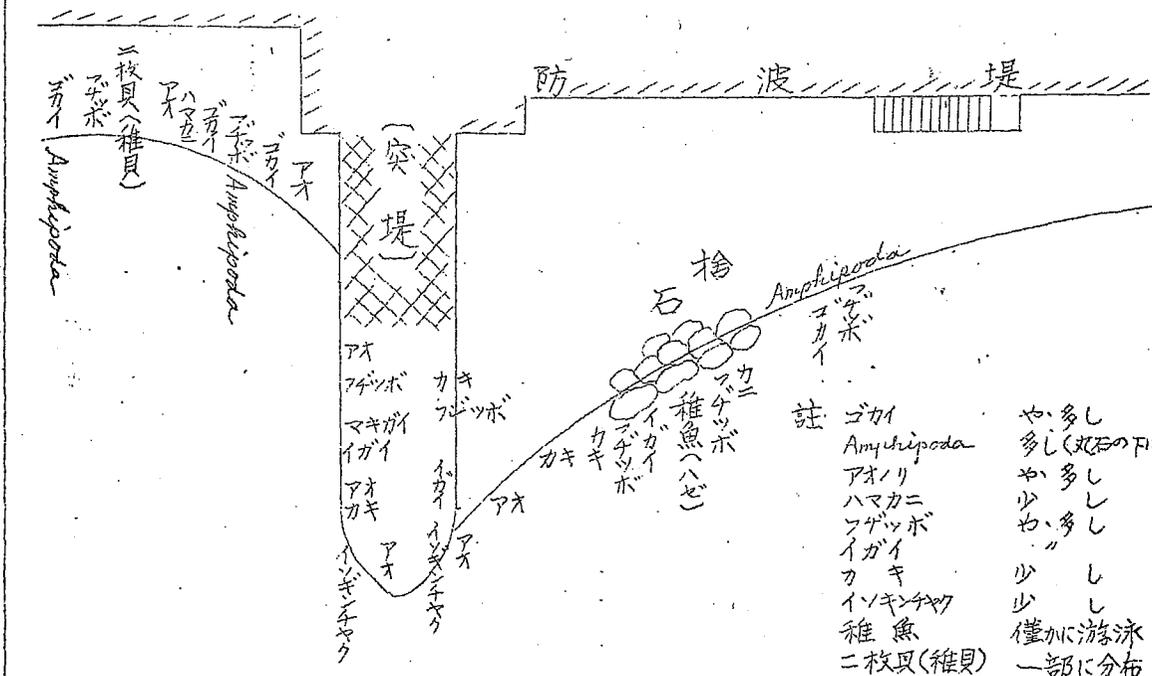
大潮干潮時に調査点における汀線一帯(20~50mの範囲)の生物採集を行い、種類と分布の概略調査を行った。従つて生物の量については定量的でなく多寡法によつた。

調査結果

調査の結果は調査点毎に別図の通り図示し、註として、生物の量を記すこととした。



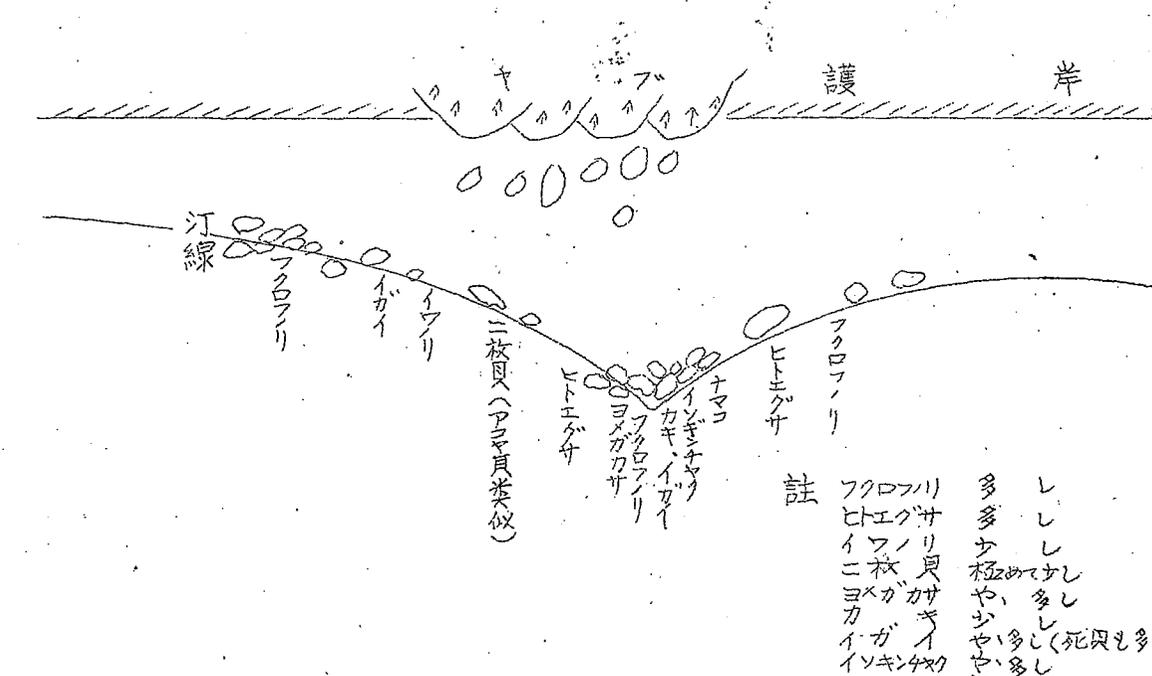
[St. I] 永浜



註

ゴカイ	多し
Amphipoda	多し(北岸の下)
アオリ	多し
ハマカニ	少し
フゲツボ	多し
イガイ	多し
カキ	少し
イソギンチャク	少し
稚魚	僅かに游泳
二枚貝(稚貝)	一部に分布

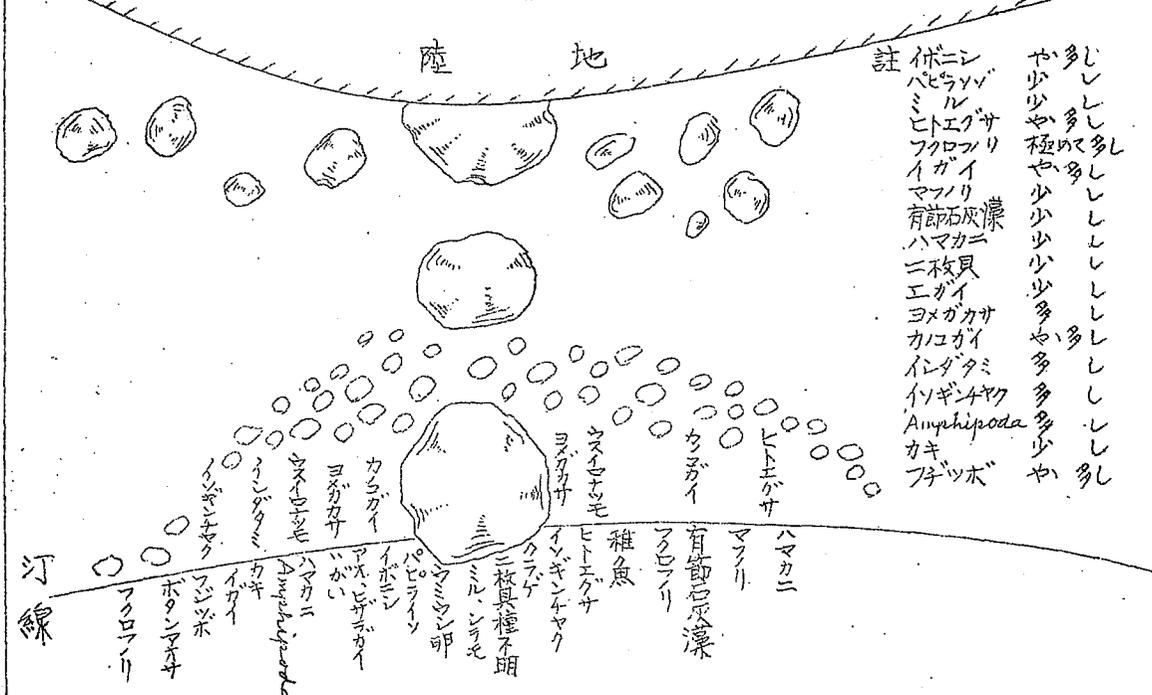
[St. 八]



註

フクロフリ	多し
ヒエグサ	多し
イソギンチャク	多し
カキ	多し
イガイ	多し
フゲツボ	多し
ヨメガカサ	多し
アマエガサ	多し
二枚貝	多し
アマエガサ	多し
イソギンチャク	多し
ナマ	多し

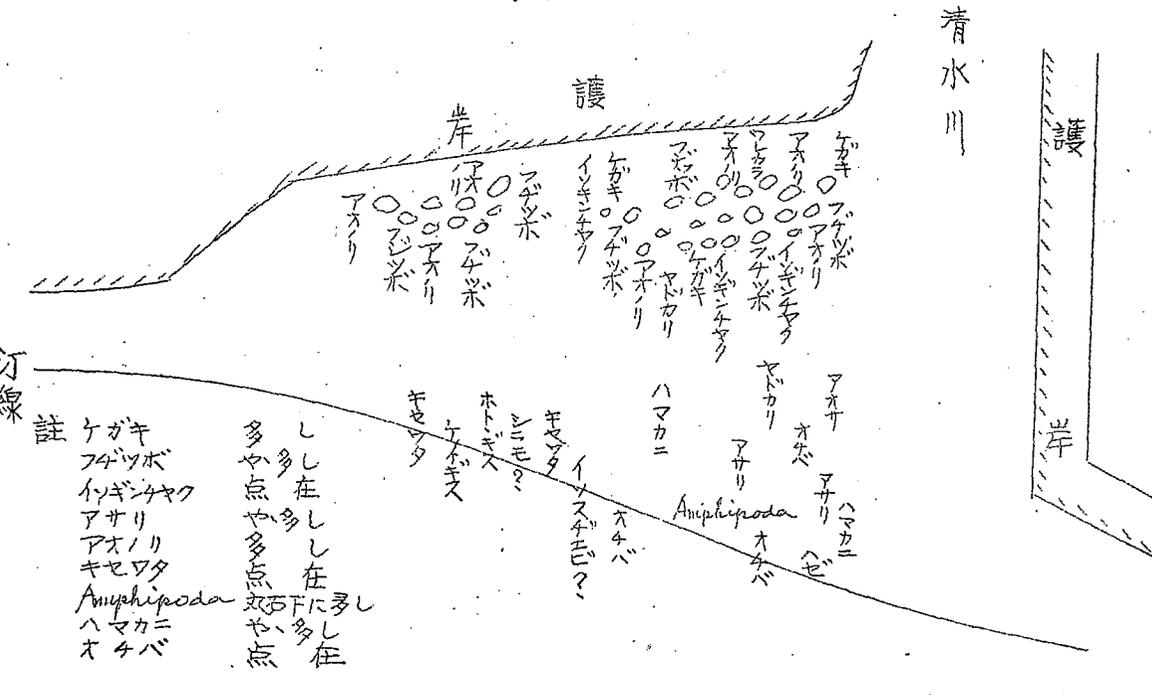
[St. 口]



註

ハビラ	多し
ミトエグサ	多し
フクロフリ	多し
イガイ	多し
マフリ	多し
有節石炭藻	多し
ハマカニ	多し
二枚貝	多し
エガイ	多し
ヨメガカサ	多し
カコガイ	多し
イソギンチャク	多し
Amphipoda	多し
カキ	多し
フゲツボ	多し

[St. 二] 清水川及右岸



註

ケガキ	多し
フゲツボ	多し
イソギンチャク	多し
アオリ	多し
アサリ	多し
キセウダ	多し
Amphipoda	多し
ハマカニ	多し
オチバ	多し









7月7日 阿久根

場長挨拶一行政面では免許許可、金融、漁船建造等相当話合  
いの機会が多いと思うが、水産試験場は技術面だけでひざを  
つき合せて話すことが少ないのでこの様な会をもつた。充分  
な意見、注文を聞きたい。

地元側挨拶一省略

各位の業務内容と今後の計画について紹介一

(漁業部)

現在試験船として3隻保有している。「照南丸」は南方まぐ  
ろ延縄を今年度2航海実施しているが、対米輸出の不振で  
価格が低く中止している。しかし「南方まぐろ」だけに依存  
するのはどうかと思うので1月～3月は「どんぼ漁」をやる  
予定である。来年度は串木野方面からの要請もあるので山藤  
地方に延縄漁場が形成されないか船団組織で出漁したい。今  
までは本県の漁船団の操業範囲から逸脱していた感があるの  
で一本化したい。海南島近海の漁場探索もやる予定。「ちど  
り丸」は手近かにあるものを利用するという意味で「めちか  
漁業」を取上げ種子島近海で操業したが全般的に不漁であつ  
た。この漁業は氷、餌、加工能力が整備されるならば大いに  
浸透するだろう。南方に伸びる機運がある。次に5～6月は  
公共への奉仕という気持から熊岳海域における「とびうお」  
の調査を行つた。7～12月は庭先の開拓という見地から  
「瀬魚」の漁業試験を行いたい。その外水産学部と共同でネ  
オン集魚盤の試験を行つているがサバ漁業への応用を考えて  
いる。又九州西南海域のサバ漁況をしつかりつかむため市場  
調査を実施しているが、これは是非続行してゆきたい。

(養殖部)

海藻、貝類、内水面養殖の技術的指導と基礎的な調査研究を  
行つている。具体的に云えば投石魚礁設置の指導。「ふのり

の岩面搔破指導、「あゆ」「こい」の養殖指導など基礎的なものとしては増殖の時期方法の研究、「黒蝶貝」「海苔」の人工採苗の研究を行い、又米芝律の海苔場調査と建込み適期の予報などを実施する。

(製造部)

最近の傾向として食料は全部包んで料理した魚をすぐ食べられる様な作り方がみられ、この時流に副うた新包装魚試験と、すべての水産製品が油揚げをして商品価値を低下させていることからこの油揚げ防止試験を行つているが確実な方法は得られていない。三番目に大漁貧乏を防止し、身近かな多獲魚を利用することを主眼とした「魚ソーセイジ」製造試験を行つている。来年度は近く乾燥機ができるので、その取扱いと適正な乾燥条件を知りたい。又かたくちいわしの塩辛「アンチヨビー」が大量には生産できないと思うが家庭工業的に成立たないか取上げてみたい。

(調査部)

5月7日新しく生れ各部から抜出した5名の部員がおりまだ骨が出来ていないので、これら会合などで大いにかalを吸収し成長してゆきたい。当面の仕事は基礎的なものと現実的なものに分けられる。考え方としては基礎的な調査を現実にあてはめることで、水質の分析、水産化学、水産生物の調査を行つている。各水研、大学の研究発表の整理、各水試専業報告書をまとめ漁業者に広く利用して頂くため図書室の整備に力を入れている。将来は小型の映写機でも備え付け眼でみる方法をとりたい。

「さどなみ」という小さな船と潜水器2台をもっているが、これで魚群の生態や漁業者のみる事が出来ないものを探知し、お役に立てたい。又試験場と直結して魚民が何を考え何

を備えているかを知り、有機的な連繋をもつため「うしお」を発行している。大いに利用されたい。

(以上までの挨拶、各位紹介は各会場共通であるから以下省略する。この後質疑応答、座談会にはいるが项目的に簡単に記す。なお答辨は関係部長からなされたが主要な分だけに止めた。又所持した図表は直接な説明はせず、参会者の質問の手がかりとした。)

(1) 魚礁、投石を毎年行っているが、その効果を数字的につかめず予算獲得の面でも困難であるので資料があるなら示して呉れ、漁業者は労力奉仕して是非やつてくれというので効果は充分あるものと思う。浅海増殖の効果は判然としている。

(答) 補助規定で効果の確認はなされることになっているが、水試でも苦心している。水産庁の確認予算が全然ない。山口県がや、綿密な調査を行っており「うしお」に載せてあるので参照されたい。

(2) 古船漁礁の場合松材をうえる理由とそのうえ方を横にすべきか縦に立てるべきか。

(3) 「わかめ」の移殖方法。「わかめ」の着いている石を黒之浜へ輸送して増殖を図りたいと思うがどうか。

(4) 「あじ」「さば」の鮮度保持で水氷の場合塩を入れるがその割合はどの位が適当か。

(5) 出水市に片倉製紙工場が設立される予定であるが、廃水対策のため操業前に必要な調査をすべきと思うので、これに要する経費、期間について。

(答) 中越パルプ工場の例をひき、知事あて県の水質汚濁対策委員会で取上げるよう公文書を出せ。

(6) どの漁協でも近海、遠洋へ進出しつつあるが、これ位の将来性があるだろうという推定だけで数千萬円を投ずることは果して如何。「さば」樺受網反対を本県では運動してい

るが見通しは如何、組合自営も一つの企業である以上、他県船へ遅れをとらない様積極的な策を見出すべきではないか、取締りの法的根拠はないか。

(答)他県船の進出を法的に阻止する基礎がなく、水産庁の方針もない、他県に負けない様に装備、方法の研究など臨機応変の準備が必要であろう。

(7)「大羽いわし」がかい游しなくなった理由と現在の漁場、全国的な資源量の増減状況

(8)「さば」の撒餌はどの魚種が最適か。

(9)沿岸漁業者が広い働場をもつため区画、共同漁業権の海域を広く拡張できないか。

(答)黒之浜は労働分化ができていないのではないか、現有勢力をどの様に配分活用するか先決と思う。

(10)米之津は33年度から新農山漁村建設総合計画の対象となる予定であるが、「海苔」の共販体制を確立し、乾燥場、貯蔵庫を計画しているので、その規模、予算、設計について教示願いたい。

7月10日

長浜小学校におけるとしき島地区漁協役員協議会にオブザーバーとして出席、1.漁協の経営について 2.漁村金融の現況とその対策 3.漁村の貯蓄運動について 4.系統購買事業について 5.漁業共済について 6.漁協職員の身分の保証について等協議されたが、各漁村とも沿岸漁業の逼迫を強調するだけで建設的な意見協議は少なかったようである。しかも漁協経営の悪化、漁学経済の不況は恰も他人がしたものゝ如くその責任を転化する意見の多かつたことは残念で、噴火口の上でゲンスをおどっている危険状態と見受けた。他力を依存する前の手段はないか真剣に考慮すべきであろう。

7月11日

鹿島村漁協会議室で行う。受講者が座談会にも出席したいというし、又会場の指定がスムーズに行かず開始が幾分遅れた。しかし一人の漁業者は17時近くまで曳縄、一本釣について討論をなす熱心さだつた。

(1)「あわび」「てんぐさ」「ふのり」等殆んどの浅海資源が減少しているが、その豊凶には週期性があるか、そして減少する現因はなにか。

(答)浅海資源は採取する時期が問題で、時期、方法が不当にならない様留意すべきである。週期性は環境条件、その種の生存期間等によつてある程度あると思うが大したことはない。そして採取を禁止してある大きき期間は厳守すべきである。

(2)黒蝶貝の資源について、又その生態は。

(答)真珠業者が増加し母貝購入についてあの手この手を使つてゐるが、資源量は築縄のできない状態で、このまま推移すると根絶する心配がある。生態は全然分つていない。水試の要請に応じ資料整備に協力願いたい。

(3)「てんぐさ」にによる素をやつて3倍以上の増収があつたという記事のある新聞で見たが「ふのり」には利用できないか。

(4)こしき島の「あわび」の成熟期を調査したことはないか。そして閉禁の時期はいつがよいか。

(5)「ふのり」増殖で採取してから磯掃塗しても効果はないか人工石には着生しないと断定できないか。

(6)川内の中越バルブは落水を河口の海に流すとのことであるが、こしき島附近の魚族に影響はないか。

(7)こしき島近海で「あじ」「さば」「いわし」等がとれなくなつたがその原因は、間宮海峽を閉鎖してあるとのことであるが真実か。

- (8)「ふのり」の価格が下つてきているが今後の見通しは如何
- (9)漁協自営で地曳網を計画しているが、底質調査のため試験船をかい航して頂けるか。
- (10) 蒲牟田瀬戸に灯台を設置する計画であるが、その光によつて漁獲が低下しないか。
- (11)「さば」一本釣の切餌はどんな切り方が最もよいか。又他の釣方法はどうか。
- (12) 漁業転換の必要性は認めるが、「さば」はね釣と「いわし」巾着網とはどちらが有利と思うか。「まぐる」漁業で収支つくなつているものは何処あるか。その経営状態の悪い原因はなにか。又漁協はどの方向に進み、どのような漁業を奨励すべきか水試の見方について説明して呉れ。
- (答)難かしい問題である。今日の方針が明日にも完全なものか時流によつて変化するので、どの漁業を奨励するということとはできない。漁協役員が常に現代的なセンスをもつて、水産業の推移、行政の方向をつかみ、将来を見通すことが必要であろう。

9月12日

中こしき 当会場でも漁協の役員、真珠業者が多く直接沖へ出る業者が少なく質問も通俗的で希路でなくて、北山部長が糸口を引出す状態であつた。

- (1)「てんぐさ」の養殖方法について
- (2)新規事業を起す意味で「こんぶ」「わかめ」の移殖は考えられないか。これらの繁殖しないのは水温等の環境要因によるか。
- (3)試験場である地先を決めて特殊なものを選び移殖しうる可能性はないか。或は調査する意志はないか。
- (4)「ふのり」の施肥方法とその効果如何
- (5)殆んどの浅海資源は不作であるがその原因はなにか。台風

の影響はないか。

- (6) 小規模な罐詰工場の設立に要する経費と一日の処理能力、及び今後の見通しについて
- (7) 合成繊維漁網についてどの漁法漁場にどんな漁網が適するか、又その耐久力は如何、としき島海区のどの場所にどの種類の網でどんな染色がよいか調査願いたい。
- (8) 「ふのり」「てんぐさ」の採取器具、磯掃除器の適当なものを教示願いたい。
- (9) 岩面搔破機を上としき村漁協連合体で購入したいと思うが補助金はないか、あつたら援助願う。
- (10) 黒磯貝を越冬させたいがたいして俵長しなかつたが年間どの位伸びるものか、又孚卵数はどの位か。

9月13日

片浦 漁業者は巾着網の出漁日と台風被害の後始末等のため少なかつた。

- (1) 水産試験場の機構について
  - (2) 「てんぐさ」が最近非常に少なくなつたがその原因と増殖方法
  - (3) 「海人草」の増殖を昨年から実施しているが、半分は成功したが半分は不成功であつた。その原因は、又「海人草」の適水温はどの位か。
- (答) 現地を見ていないのではつきり云えないが、胞子の放出期は年、場所によつて相当な開きがあるので注意せよ。原藻を送れば検閲してお知らせする。
- (4) 「海人草」の胞子は水温が急昇すれば刺戟となつて放出されるか、或は漸次上昇しないと適期とならないか。
  - (5) 旋網漁業の経営状態と「かつお」餌料としての「かたくちいわし」の見通し及び技術的な改善策はないか。
  - (6) 「かたくちいわし」の産卵回数、かい游範囲は如何、漁況

調査に青年の研究グループに呼びかけてはどうか。資料があつたら流して呉れ

(7) 真珠貝養殖の見通し、母貝資源について

(8) 牛深では土産物として「梅干し」を売っているが、当地で副業として製造販売は考えられないか。本県内で生産販売しているか。

(9) 「うしお」に漁協、市町村などから投稿できないか。

(10) 農業関係では改良普及員が多く配置されているが漁村には少ない。県で設置する動きはないか。駐在員はおけないか。

(答) 水産に関する改良普及は立遅れ水産庁でも予算獲得に腐心している、県独自で配置することは無理であるから、各町村が水産技術者を採用したらどうか。

(11) 水試の収入予算について

(12) 「さば」「まぐろ」漁業の将来性について

(13) 75萬円の事業費で魚礁を設置するが、場所はどんな条件がいるか

(14) 試験場側から漁協、役場に対し依頼することはないか、又不満に思う点は

(答) 水産試験場が当業者と遊離していないか危 されるので、今後緊密な連けいが欲しい。

以上4会場の内容を列記したが出席者名簿は省略する

水産機械電気取扱技術指導報告書

竹 下 記

§ 昭和32年度水産機械電気取扱巡回技術指導状況

実施組合名	受講人員	実施月日	講習内容
阿久根漁協	58	32. 9. 9.	水産機械電気機器
鹿島漁協	26	32. 9. 11.	"
平良漁協	37	32. 9. 12.	"

§ 講 師

水産機械

鹿児島県水産試験場 試験船 照南丸  
 機関長 成尾 隼 夫

電気機械

日本無線株式会社  
 技 師 長谷川 幡 尊

§ 指導上特に留意した点

- 1.) 本県は特に離島、僻地が多くこれらの地方には、鉄工所はおろか簡単な修理工場すらない漁村が多いので指導の重点を離島、僻村においた。
- 2.) 本県漁村の動力は過去焼玉機関が大部分であつたが現今ディーゼル機関へと切替えられつつあるので主に小型ディーゼル機関を主眼におき併せて電気着火焼玉について指導を実施した。
- 3.) 指導の重点はあくまでも実施指導におき機関の分解、組立運転、調整及び保守について留意し機関の取扱及び運転上必要な基礎理論、或は特殊構造について平易に説明する様にした。
- 4.) 指導講習会場に於てはなるべく其の地方でもつとも多く使用されている機関を教材とし実施に分解組立運転調整等を実施指導するようにした。

- 5.) 電気機器については発電機、蓄電池或は魚群探知機等について必要な基礎理論、取扱方法、及び保守について留意指導した。

### 3) 指導実施事項

#### 1.) 映写会の開催

題名ディーゼルエンジン（内容ディーゼルエンジンの原理構造の説明ディーゼルの特性、使用状況）の映写会を通じ機関に対する一般知識を啓発せしめる様とした。

#### 2.) 水産機械の指導

- イ) 機関使用上に就いて
- ロ) 内燃機関の大意
- ハ) ディーゼル機関の特徴
- ニ) ヌサイクル機関の調弁について
- ホ) 燃油系統各部原理構造について
- ヘ) 潤滑油系統各部原理構造について
- ト) 燃料噴射機構について
- チ) 各機関に於て起り易い故障及びこれが起る原因並に対策について
- フ) 受講者及び講師等の過去経験した故障及び対策を中心とする研究討議

#### 3.) 水産電気の指導

- イ) 基礎の電気学
- ロ) 蓄電池について
  - a. 蓄電池
  - b. 蓄電池の容量、電圧及び比重
  - c. 極板
  - d. 電解液
  - e. 初充電
  - f. 放電
  - g. 平常充電

h 比 重

i 蓄電池の能率と寿命

ハ) 直流発電機について

a 運転前の注意

b 起 効

ニ) 電圧調整器について

ホ) 各電気機器の起り易い故障及びこれが原因及び対策について



## “ニュートリ”スタイルの加工試験

製 造 部

### 趣 旨

ツナ罐詰となつて米国へ輸出されるまぐろ肉が罐詰でなく「ロイン」(調理した冷凍品の包んだもの)として米国へ向けられるものは昨年あたりから、相当の数量である。まぐろの「ロイン」は煮上肉をクリーニングして罐詰に整形し、次に凍結、更にポリエチレンフィルムで包装してあるものであつて、ツナ罐詰の予一次加工品と考えるべきか、冷凍品として取扱うべきか、とにかく包装食品には間違ない。又我々の身近かな「ロイン」としては、アジ、ハマグリ、ガキ、など使いやすく、衛生的で忙しい現代の食生活にもつてこいものとして広く普及されてきた。

我国でも先般の南極予備観測では大量の「ロイン」がお供をし隊員を大喜びさせたのである。

ニュートリスタイルの加工品は、さきに予15号“うしお詰”

で述べているように気密性フィルムで包装してあることで「ロイン」と同じである。即ち「ニュートリスタイル」は高温加熱で殺菌し、直ちに気密性フィルムで包装したもので、或る程度の保蔵性がある「ロイン」は調理したものを凍結し気密性フィルムで包んだのであるから両者は大同小異と見てさしつかえなからう。

従来、焼製品は裸のまま陳列され、ほこりや細菌が附着して非衛生的で又製品の保蔵性も乏しいので「ニュートリスタイル」の加工方法を試みた。殊に揚かまぼこは $170^{\circ}\text{C}$ の高温で油漬されて、揚げの直後は完全無菌であるから「ニュートリスタイル」に期待をもつた。

実施期日 昭和32年6月12日～6月22日

実施場所 鹿児島県水産試験場製造工場内

#### 試験結果

無包装の油揚焼製品は製了后80時間までは摂食可能であるがポリエチレンフィルム包装製品は製了后108時間まで摂食可能品を得た。無包装の湯煮焼製品は製了后50時間までは摂食可能であるがポリエチレン包装品は製了后84時間まで摂食可能品を得た。

#### 実施要領

さば原料・・・調理(内蔵、えら除去)・・・水洗・・・塩水漬(2/時間)・・・水洗・・・水切・・・揉肉(手仕上)・・・ミンチ碎肉・・・らい潰(1～2分)・・・食塩、フラスキ投入混知(15分)・・・調味料香辛料投入らいかい(10分)・・・油揚又は湯煮・・・ポリエチレンフィルム包装・・・脱気( $95^{\circ}\text{C}$ ～15分)密封・・・冷却・・・製了・・・放置(室温 $25^{\circ}\text{C}$ ～ $28^{\circ}\text{C}$ )

塩漬用塩水の割合

品名	数量		%	薬品比率
	kg	g		
さば(頭内蔵えらなし)	1.700	6380	53	
水	1.230	4615	38	
食塩	268	1000	8.365	
タイリヨウ(抗酸化剤)	0.8	3	0.25	全量の4000
ホセンフラスキン(鮮度保持)	1.23	462	0.385	全量の2500
計		12002.62	100	

塩液のポーマ度及び水温

魚体浸漬前の水温 19℃ ポーマ度 17 室温 26℃

魚体浸漬後の水温 21℃ ポーマ度 13 室温 27.5℃

調味料、香辛料の配合割合

品名	数量	%	薬品比率
さば肉(ミンチ採肉后精肉)	3370g	80.7%	
ネオフラスキン末	1.6	0.0384	全量の2600分ノ1
デヒドロ酢酸	1.04	0.025	全量の4000分ノ1
サツカリ	0.8	0.019	
ズルキン	0.34	0.005	
澱粉	400	9.6	
グルタミンソーダ	7.2	0.172	
モツク(海藻)	197	4.72	
水	197	4.72	
計	4175g	100%	

歩留

種別	数量	%
さば鮮魚重量	8000g	100%
さばえら、頭、内蔵、除去后	6370	79.6
さば塩漬后	6370	79.6
さば採肉(精肉)重量(手仕上)	3370	42.1
練肉重量(加熱前)	3550	44.5
油燻(ツケアゲ)加熱重量	2150	40.9%
湯煮(チギリ)加熱重量	1425	
		練肉の91.5%
		練肉の94.1%

燻肉より油燻、湯煮 歩留

種 別	油 燻	%	湯 煮	%
燻 肉	2350g	100	1200g	100
製了后	2150g	91.5	1125g	94

試料種別の記号

記 号	油揚及水煮の別	脱気が熱の有無	ポリエチレンフィルム包装の有無
A 1	油 燻	無	有
A 2	油 燻	脱気が熱有	有
A 3	油 燻	○	無
T 1	湯 煮	無	有
T 2	湯 煮	脱気が熱有	有
T 3	湯 煮	○	無

註

1.) 油燻及湯煮について

油揚は燻肉を6分丸長となつて食用油(種油)にて煮上げたもの。

湯煮は燻肉を6分丸の3寸長となして湯中(95℃)にて揚げたもの。

2.) 脱気が熱の有無について

有は製品をポリエチレン袋に入れて95℃15分蒸煮密封。無は製品を熱い内にポリエチレン袋に入れて密封。

○印は包装なく其のまま放置せるもの。

試料観察記録其の一

日付	6月12日	6月13日	6月14日	6月15日	6月17日	6月22日
記室温	26℃	27.5	29	28.5	23	21.5
号 天候	曇	曇	曇	曇	雨	雨
A 1	光沢さえず 養用可	光沢なし 食用可	光沢変わらず 食用可	ネット状の触感あり 色沢変化なし 食用可	異臭発生 食用不可	変色ガス発生/個認 食用不可
A 2	"	"	"	色沢変化なし 食用可	ガス発生の微有り 食用可	変色なくもカビ発生 食用不可
A 3	"	"	光沢変わらず 外袋若干乾燥 食用可	表面乾燥変色 食用可	異臭発生 白青 カビ発生 食用不可	腐 敗
T 1	"	"	光沢変わらず ポリエチレン内部に水 滴 食用可	色沢変わらず ポリエチレン内部 水滴 食用可	青カビ発生腐臭 食用不可	"
T 2	"	"	"	"	変色縮酸化臭あり 食用不可	"
T 3	"	"	端部は黒色を帯び乾燥 を呈しネット発生した物 あり 食用可	ネット白カビ発生 腐臭 食用不可	腐臭極めて強く うじ発生 食用不可	"

(28)

試料観察記録 其の二 (32. 6. 22. 日分のみ)

- A 1. ガス発生 / 個を認む尚全試料共に変色あり。  
 A 2. 給体的に変色認めぬも微の発生あり。

種 別	ガス発生 の微有り	包装の 破 損	発 徴	個本数	微臭	食取の可否
脱気が熟品	—	⊥ P	鮮黄色布 に生留	大	十	否
“ “	—	P、H	—	小	—	可
脱気が熟無	—	—	—	小	—	可
“ “	十	—	—	小	—	可
“ “	十	P H	白線カビ群 0.6 mm. 3 ヶ所	大	十	否

⊥ P = 縦線破れ

P、H = ビンホール

上記観察記録は A 1. と A 2. の残試料 5 点の記録である。

考 察

該試験は不十分な所が多いので単にこれを以つて其の効果を結論づける事は危険であるが大体下記の事が云える。  
 即ち“ニュートリスタイル”は揚かまぼこで 30% 揚煮（チギリ）の場合 5% の保蔵期間の延長が加能である。

観察記録其の二表が示すと、この保蔵中に気密性であるべきフィルムが数日の内にビンホール或は破れなどの変化が明白であつた。・・・この原因は全然察知しない所であるが完全に気密を保つていたなら、更によい結果が得られたのではないかと思われる。

こゝ数年来黒蝶貝の半円真珠が盛んに養殖されるようになってきた。初めた頃は資源の程も棲息地域も殆んど判らず（現在でも判然しないが）五里霧中というところであつた。

しかし段々やつて行くうち資源量も棲息区域も余り大きくない事が判つて来た。即ち毎年業者数は増えて来ているが珠の生産量は余り増えない。つまり毎年の養殖貝の数は30,000個～40,000個に落ちついているようである。しかしこの落着いた数字も採集する場所が毎年同じ場所であつたら安心してよいと思うのだが二年も続けて獲つた場所ではその翌年は余り期待はもてないし、已に業者の多いとしき島地区では今年是非常に生産が少かつた。これは明かに今までの乱獲がたゞつていっているものである。

南薩方面で割合に新しい漁場を探しあてた業者だけが沢山の貝を集め残りの業者は予定数を遙かに下廻り唯他人のとるのを望観していたというのが実状のようだ。そしてこのような状態は多少の差こそあれ毎年繰り返えされているのだ。

このように新漁場が探し出せる間はまだよいがもう後数年もしたら新漁場もなくなるだろう。これと同様の過程をたどつて已に殆んどなくなつているものが大島の「マベ」である。そしてこの「マベ」の復活は仲々困難視されている。黒蝶貝も資源の多い中になんとかしなければというので人工採苗を考えその基礎調査を行つている。この計画に業者の皆さんは色々のことを考えておられるようだが先づ協力的な人。そしてこの計画を頭から笑う人の二に大別される。我々は人間さえ創造出来るという時代に貝の人工採苗位は何とかなりそんなものだと考える。

大島の分場では「マベ」のこかつが早かつただけに已に基礎

調査も終つて人工採苗の試験も黒蝶貝の人工採苗より遙に進んでいる。鹿児島島の「黒蝶貝」はこれからだが「アベ」が成功すれば「黒蝶貝」にも応用出来るだろう。

若しこの試験が成功すれば半円露珠の見透しは明るくなるだろうし業者も増えるだろう。私初め水産にたづさはる者は水産は判らない事が多いので先を急ぐようだ。そして業者の皆さんも長くかゝつての試験を好まずその時その時で事をかたづけるような注文が多いようである。若しこのような人工採苗の試験を機会に基礎をつかむ体験を生かし業者もその気になつて行けば水産業というものも一朝を画するかも知れない。水産も今少し飛躍してよさそうだ。

### 奄 美 短 信

- どうやら奄美の夏も過ぎてめつきり秋らしくなつて来た。分場裏山のせみ時雨も心なしか逝く秋を惜しむかの様である。夏が長い土地柄のためか秋の爽やかさは一入快いものに感ぜられる。
- さんご漁業試験、十月初旬の才ノ次航海を以つて終了することにした。所期の成果を挙げ得ず遺憾に堪えないが、初めての試みではあり、次年度は本年度の経験を生かし、より合理的な調査をと念じている。
- とにかく業者船も主として既存漁場に於いて操業したため殆んど採りつくした様で昨年或は一昨年の如き様況は見られず赤字の船が多くこの漁業のもつ悲惨な没落は案外早く訪れたといえよう。

新しい漁場の発見は今後の課題である。

○ Y主事鹿兒島出張帰りの土産話。新築の本場建物の話に花が咲く。何よりソテツを植える土地があるかどうか。話ではどうやら間に合うらしい。本場でも根付くかどうか大分気をもんでいる様子。是非育ってもらいたいものです。樹令推定100年。悠容迫らざる偉容を本場玄關に誇る日を夢見ています。

○ 比較的順調な漁を続けて来たかつお一本釣もこの処餌料のキビナゴが不足勝で現在各船休漁する日が多い様だが何れにしても漁期は終りに近い。

一方沿岸各地ではムロアジが獲れ始めたがポツポツ。

サンゴ船も全船引揚げ古仁屋漁港はひっそり閑としている。

○ 32年度復興事業も愈々大詰で。実験室、沿岸試験船建造も近く着手される筈。

色々書類作製に大忙だ。

もう台風も来ないらしい。ハブ公の噂も殆んど聞かない。

風も一段とさえて正に秋は穏々たり。

奄美の気候は今が一番よい。

遙かに皆様の奮闘を祈りつゝ

(10. 11. S・L 記)

東支那海まぐる。かじき延縄漁況 (才 / 報)

漁業部

概要

支那東海に於けるカジキ類を主とする延縄漁場は夏期の釣獲率の低下と当漁場が台風の通路に当る為1~2隻による操業が行われた他は三陸沖のクロマダコ延縄漁業に従事し全く漁閑期となつていたが9月にはいり三陸沖のクロマダコ延縄漁業の不振もあつたので稍活発となつて来た。

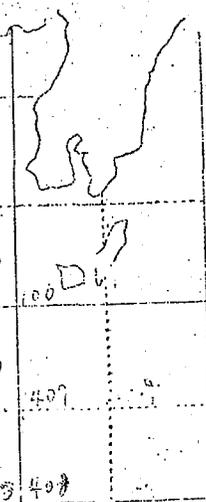
9月中の鹿児島港入港船は9隻(串木野港の入港船も大部あつた)総所用釣数39,151本で12回操業の好漁船で4,000メ~5,000メ、漁の悪い船でも2,000メ内外の水揚をなしている。

漁獲率は一般に今だ低く漁獲率1%内外で漁場も主に30N~32N 138E~129Eの男女群島南~南西沖に集中されクロカワカジキとシロカワカジキを目標とし1日の使用釣数400~600本で好漁の日でクロカワ10尾以上の漁をなしている。魚体はクロカワは一般に大きく30メ台が主でシロカワは魚体が小さく10メ台が大部分である。

上段 操業回数  
中段 上段漁獲尾数  
下段 漁獲率 %

(実質、竹下)

日	操業回数	上段漁獲尾数	漁獲率 %
31	4	19	0.91
21	4	16	0.67
20	2	14	1.20
19	3	29	1.63
18	1	20	1.13
17	2	14	1.28
16	3	29	1.32
15	1	3	0.50
14	6	45	1.34
13	3	3	0.50
12	4	40	1.00
11	3	30	1.00
10	3	30	1.00
9	3	30	1.00
8	3	30	1.00
7	3	30	1.00
6	3	30	1.00
5	3	30	1.00
4	3	30	1.00
3	3	30	1.00
2	3	30	1.00
1	3	30	1.00



No. 11

## 漁 況 調 査 表

鹿児島港調査

調査期間  
自 昭和32. 9. 1.  
至 昭和32.10. 8.調査船 9隻  
調査船番号 1254 ~ 1263号

漁場記号	操業船数	操業回数	使用釣数	オカジキ	マカジキ	クロカジキ	シロカジキ	バシヨウ	小計	サメ類	計
51	1	4	2,080			9 0.43	2 0.09	8 0.38	17 0.71	8 0.38	27 1.30
61	1	1	600			3 0.50	1 0.16		4 0.67	1 0.16	5 0.83
80	5	29	15,770		2 0.01	137 0.38	45 0.38	23 0.14	209 1.32	176 1.12	385 2.44
70	2	2	1,090		1 0.09	4 0.37	8 0.73	1 0.09	14 1.28	36 3.30	50 4.59
71	1	1	500			2 0.40	3 0.60	1 0.20	6 1.20	2 0.40	8 1.60
81	7	29	14,395		1 0.01	123 0.85	23 0.16	16 0.11	163 1.13	92 0.64	255 1.77
90	1	1	400			2 0.50	3 0.75		5 1.25	2 0.50	7 1.75
369	3	6	3,716	1 0.02	4 0.11		37 1.00	6 0.16	48 1.29	38 1.00	86 2.31
399	1	1	600			1 0.17	3 0.33		4 0.50	13 2.17	16 2.67
計	24	75	39,151	1 0.00	8 0.02	181 0.72	123 0.31	52 0.14	467 1.19	371 0.95	838 2.14

(34)

## 要 望 欄

額 姓 町 役 場 原 口 義 雄

### (潜水士の養成について)

沿岸漁村振興の一助として、近年浅海増殖が実施されつゝありますが、事前に於ける、基礎調査、事後の効果、調査、採取について(もぐり)が少ないので、成果が上がりにくい様です。事業の進展ともぐりの養成は平行すべきと思います。裸もぐりだけでなく、簡易潜水器も出現して居ると思いますので、水試において年々台数もふやし、技術者も増員し現地漁村の望む時期に出張指導され器具の貸与等により一層の御指導、御協力を願います。併せて水産庁当局にも担当官会議又は書類に於いて潜水器の充実助成に大巾の予算増額方要望下さい。

### (魚礁について)

魚礁(築磯)は沿岸漁業振興の重要施策として往時より漁民の重視し、当局も奨励する処であります。沈設の事前に又事後に於て科学的調査に欠ける嫌いがあり、為政者としても助成しないから、スツキリしない心地の様です。魚礁の効果がより科学的に確認出来たら、市町村漁協においてもまだまだ投資の用意はあると察します。幸い貴場には潜水船も在り担当技師者も居られるので、過去の調査や全国的資料を集めて総合的結論を出し、魚礁特集号を刊行し、又現地の希望に依り、科学的、計画的指導講習会、現地指導を実施下さいます様要望します。本町としては、本年度実施前に(年内に)講話会を開きたいと思っておりますので至急指導計画を樹立下さい。

各 部 便 り

〔 漁業部日誌 〕

9.30 ちどり丸 本年度茅一次瀬魚漁業試験のため出帆

10. 8 山川町村山氏アイザメ試験のことについて来訪

11 照南丸 対馬暖流海洋観測のため出帆

14 小型船をプラスチック製にすれば腐蝕がなくなり零細漁業者にとっては福音をもたらすとの考えを抱いている人がある。

出来る事なら新規事業として予算化を図りたいとの含みで鹿大奈良迫助教助を訪問したが時期尚早の様で見送る事にしする。

科学朝日11月号にプラスチックのことが詳しく報ぜられているところによれば、自動車のボディ迄は出来ているようだが船型の多様性等考えると前途には困難が多い様だ

21 33年度予算要求概要書長え提出す。

〔 製造部 便 り 〕

9.20 鹿大水産学部 西元教官来訪

二枚貝の剣身(除殻)を薬品でやる方法につき、同教官と打合せをする。

9.26 阿久根市平塚正人氏来訪

同氏は魚肉ソーセージ製造をはじめたのは先月のことである。今日までの経過は順調らしい。

9.28 冷凍機械の撤去

今まで手を焼いたこの問題は漸く函南工業kkでやることになつていよいよ。こう決つてしまえば着手してから僅か3日間で無事に撤去が果された。

9.30 レトルトの罐体検査

工場移築にともない、汽船取扱規則に基づくレフトの処  
置一切を据付工事者が施工することに決る。

#### 10.8 コロナバーナーの説明

コロナ電業kkから社員二名来訪、同社独特のこのバー  
ナーは水産加工工場向として、興味ある条件をもってい  
ると認めた。

#### 10.10 水産加工技術講習会

谷山町主催のこの講習会に部員(白石、木下)二名が講  
師として訪く

#### 10.14 「うに」製造の個人指導

大島郡与論山田氏は「うに」製造の勉強にわざわざ来訪  
製造技術から製品流通面に涉つて、指針を呈供した。

#### 10.18 熊毛産とび魚の流通円滑化について

湯川熊毛支庁長来訪、とび魚の大漁貧亡的事態をなくす  
るための加工面で対処できる計画をたてるよう要請され  
た。

#### 10.25 県下産魚肉ソーセージの好況

阿久根市平塚工場から、昨今需要に応じきれないから増  
産の資料を仰ぎたい旨懇請あり。

### 〔 調査部日誌 〕

#### 10. 1. 水質汚濁予備調査

塩分検定及び底質しやく熱減量測定(15日まで)

#### 10. 3. 元製氷室を臨海研究所にするため垂水町ふもとに解 体移転、研究所しゆん工は11月下旬の予定

#### 10.14 米之津ノリ漁場指導調査九萬田技師出張

(10月15日~11月5日)

#### 10.19 北海道大学水産学部50周年記念日本水産学会に出 席中の場長、弟子丸氏帰鹿

#### 10.30 南種子小型定置漁場精密調査予定(小型漁船(総漁行))

〔 養 殖 部 メ モ 〕

- 9.13 黒蝶貝成準期調査と貝掃除のため、部長以下4名牛根へ
- 23 湾内ノリ養殖場、潮間観測
- 26 米之津のり種子場調査および指導のため、瀬戸口技師出発
10. 1 さば魚体測定
10. 9 あさくさのり養殖場こう立て・・・甲突川尻
- 10.14 のり資材の準備

分 場 日 記

- 9.12 龍郷中学校修学旅行団来場
- 9.14~20 マベ人工採苗実験（産卵誘発不成功）
- 16 才二次かつお節加工試験開始（本節104尾、144×600匁）
- 18~21 さんど漁業試験（才9次）
- 25~10.4 諸鈍むろ八田網仕立指導（合成せんい、復興事業による）
- 27~10.2 花富むろ敷網 " ( " " )
10. 1 瀬戸内町合併一周年記念祝賀会
- 2 鹿大水産学部和田助教授、税所助手マベ研究のため来場（油井小島にて研究継続中）
- 4~9 さんど漁業試験（才10次）
- 6 才一次かつお節製品（烏節）東京石田商店出荷
- 8 大和村円戸中学校旅行団見学のため来場
- 9 本節ばい干終了（14番火）棚降し

10.10 西技師うに加工指導のため与論島へ  
柳主事予算打合せを終り鹿儿島から。

## 編 集 後 記

△通勤のみちすがら生垣の裾のあたりにチラとかいまみる小菊の黄色がドキンとする位鮮烈な残像を盲膜に焼きつける。

清爽の気充ちて桜島の山肌もキリツとひきしまつてきた。

△昔から本県船が自分の前庭として泰平をおう歌した東支那海漁場にも漸く、拡散の法則が激しく作用してき始めた。濃厚なる原液を注入して、決しておくれをとるまいぞ。

△鹿兒島湾の水質汚濁予備調査、辺田小島の辺りに汀生物をもとむれば、とるかいもなきやどがりや、今はむなしきあさり殻合わせんとすれば音のさびしき。

△阿久根を振出しに片浦に終つた水産試験会、始めて企画としては先づ上等。来年は一段と工夫をこらしてほしい。

△前田技師の采流魚、亡びゆく貝えのためいきと創造えのいばらみちか。

(編集部)